

NPO・NGO入門

担当教員 -具志 真孝

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会の変化が著しく、地域住民の生活が多様化・複雑化していく中で、公共サービスの中心的な担い手であった行政にも限界が生じてきており、新たに公共サービスの担い手としてNPOが注目されてきた。この入門講座では、NPOに関する基礎的な知識・技能の修得をめざすとともに、NPOが学生の就職選択肢の一つとしての学習の機会になることを期待したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	「NPOとは何か ～市民参加と社会的役割～」
2	「NPO法人とは何か ～経済・社会情勢との関わりを通して～」
3	「那覇市におけるNPO活動支援の取り組み」
4	「オーストラリアの事例紹介（1）」
5	「オーストラリアの事例紹介（2）」
6	「地域通貨とコミュニティ～世界の事例を通して考える～」
7	「まちづくりの考程・情報生産技術～市役所での経験を通して」
8	「まちづくりの考程・情報生産技術～市役所での経験を通して」
9	「ワークショップ ～NPOをつくろう、リエゾン～」
10	「ワークショップ ～NPOをつくろう、理念づくり～」
11	「ワークショップ ～NPOをつくろう、理念づくり～」
12	「ワークショップ ～NPOをつくろう、現状把握～」
13	「ワークショップ」～NPOをつくろう、現状把握～」
14	「ワークショップ ～NPOをつくろう、未来デザイン～」
15	「ワークショップ」～NPOをつくろう、方針・方策～」
16	まとめ ～振り返り～

【履修上の注意事項】

できるだけNPOに関心のある学生の授業参加を求める。

【評価方法】

授業の出席日数、レポート、ワークショップでの討議状況などを勘案して、総合的に評価する。具体的には、主としてレポートを精査して、入門講座としての基礎的な知識の習得を基準とした評価をしたい。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジユメを配布する。

【参考文献】

- ・「NPO基礎講座」～市民社会の創造のために～ 山岡義典編著 ぎょうせい
- ・「にいがたまちづくり事典 マチダス」企画・編集・発行 財団法人ニューにいがた振興機構 制作（株）博進堂

NPO・NGO入門

担当教員 小阪 亘

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業のテーマは「アクション」。実際にNPOのスタッフやリーダーとして活動する人を招き、沖縄の社会課題や、解決に向けて社会に仕組みをつくり活動する現場を学ぶ。事例実践者とともに社会課題解決に向けて議論と提案をする。また、NPOについての理解を深めるためにレクチャーを挟みながら、社会課題に気づきアクションを起こす力を育むことを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション 自己紹介（取り組む活動紹介）
2	社会におけるNPOの役割これまでとこれから（NPOとは、歴史と誕生など）
3	事例1（学生NPO）（事例発表学習＋議論＋提案＋ミニレポート、以下同じ）
4	事例2（学生NPO）
5	事例3（学生NPO）
6	NPOを運営するためには
7	NPOと行政、企業との協働
8	事例4（高齢者問題に取り組むNPO）
9	事例5（障がい者問題に取り組むNPO）
10	事例6（人権問題に取り組むNPO）
11	事例7（環境問題に取り組むNPO）
12	事例8（まちづくり問題に取り組むNPO）
13	事例9（子育て問題に取り組むNPO）
14	事例10（若者問題に取り組むNPO）
15	本当に社会に必要とされる仕組みをつくるために（まとめ、ふりかえり）
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- ・事例発表のテーマやNPOについては変更する場合がある。
- ・授業への参加人数や状況によっては（事例4～10）については、授業履修者にコーディネートしてもらう。

【評価方法】

授業参加（出席回数や授業への議論への参加度など）、毎回授業終了時に簡単なミニレポートを書き出席とする。レポートの提出状況、期末レポートによって判断。

【テキスト】

授業ごとに配布

【参考文献】

加藤哲夫著「一夜でわかる！NPOのつくり方」（主婦の友社 2004年）
 デビッド・ボーンステイン著「世界を変える人たち」（ダイヤモンド社 2007年）
 駒崎弘樹著「社会を変える」お金の使い方」（英治出版 2010年）

企業を知る I

担当教員 村上 了太

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義は、広く企業を理解するために設けられた科目であり、初学者に向けて経営学を概説することが目的である。経営学を理解するために、まず企業とは何かを平易に説明する。同時に「働く意味」についても考えていきたい。そして受講生のキャリア形成にも貢献する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	成績の評価基準と出席確認方法などの説明
2	キャリアとしての企業
3	生活に密着している企業
4	携帯電話で企業を考える
5	自動車で企業を考える
6	航空で企業を考える
7	企業の責任（事故、不祥事、欠陥商品）
8	中間試験
9	職場の組織を考える
10	人間をどのように管理するか①
11	人間をどのように管理するか②
12	経営学の役割
13	就労、就社そして就職①
14	就労、就社そして就職②
15	まとめと質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 私語、講義中の携帯電話使用、理由なき途中退席は厳禁である
- (2) 講義の進捗状況によっては、計画を前後させる場合がある
- (3) 就職内定者の活動状況を紹介する場合もある。

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。なお、中間試験か期末試験のいずれか、または両方を受験しなかった者は不可とする。

【テキスト】

日経CSRプロジェクト編『CSR 働く意味を問う』日本経済新聞出版社、2007年

【参考文献】

各回の講義の際、必要に応じて紹介する

企業を知るⅡ

担当教員 村上 了太

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、「企業を知るⅠ」を基礎に、実際の企業行動を概観していくことにある。とりわけわれわれが日頃接している「企業」の実例を挙げながら、経営学を考えていくことに時間を費やしていきたい。「企業を知るⅠ」と同様、受講生のキャリア形成にも貢献する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の説明
2	業界研究①
3	業界研究②
4	業界研究③
5	業界研究④
6	業界研究⑤
7	業界研究⑥
8	中間試験
9	商品に関わる問題事例①
10	商品に関わる問題事例②
11	商品に関わる問題事例③
12	商品に関わる問題事例④
13	商品に関わる問題事例⑤
14	商品に関わる問題事例⑥
15	まとめと質疑応答
16	期末試験

【履修上の注意事項】

- (1) 「企業を知るⅠ」からの履修を勧めるが、履修条件とはしない
- (2) 企業活動から生まれる諸問題は常に変化している。なるべくアップトゥーデートな内容を提供する
- (3) 私語、講義中に携帯電話使用、理由なき途中退席は厳禁である
- (4) 就職内定者の活動状況を紹介する場合もある（平成24年度は10名）

【評価方法】

出席（50%）＋試験（中間25%＋期末25%）。なお、中間試験か期末試験のいずれか、または両方を受験しなかった者は不可とする。

【テキスト】

日経CSRプロジェクト編『CSR 働く意味を問う』日本経済新聞出版社、2007年

【参考文献】

各回の講義の際、必要に応じて紹介する

教育学 I

担当教員 野見 収

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「教育学」という学問領域がよって立つ地平を、社会、発達、思想、生命、人権、平和といった観点から確認し、今後、学生が教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角を提供する。本講義を通じて、教育という営みに対する学生の興味関心が、より深いものになることを期待する。

【授業の展開計画】

- 1 インTRODakシヨN
- 2 学力と教育（1）－「学力低下」問題①
- 3 学力と教育（2）－「学力低下」問題②
- 4 発達と教育（1）－野生児の記録①
- 5 発達と教育（2）－野生児の記録②
- 6 特色ある教育の思想と実践（1）－シュタイナー教育①
- 7 特色ある教育の思想と実践（2）－シュタイナー教育②
- 8 特色ある教育の思想と実践（3）－生活綴り方教育①
- 9 特色ある教育の思想と実践（4）－生活綴り方教育②
- 10 生命と教育（1）－優生学と教育①
- 11 生命と教育（2）－優生学と教育②
- 12 人権と教育（1）－差別と教育①
- 13 人権と教育（2）－差別と教育②
- 14 平和と教育（1）－沖縄戦と教育①
- 15 平和と教育（2）－沖縄戦と教育②
- 16 定期試験

【履修上の注意事項】

遅刻、私語、無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上欠席した場合には、期末試験の受験を認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジユメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

教育学Ⅱ

担当教員 野見 収

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育という営みを支える基礎原理を、歴史・思想・制度といった多角的な視点から読み解き、その限界と可能性を確認しながら、今後の教育のあるべき姿を学生とともに模索する。教育学Ⅰと同じく、学生が今後、教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角の提供を目的とする。

【授業の展開計画】

- 1 イントロダクション
- 2 子ども理解について（1）—臨床心理学の知見①
- 3 子ども理解について（2）—臨床心理学の知見②
- 4 教師と教育（1）—今日の教師をとりまく社会的状況①
- 5 教師と教育（2）—今日の教師をとりまく社会的状況②
- 6 教師と教育（3）—「教師—生徒」関係の課題
- 7 性と教育（1）—性教育の現状
- 8 性と教育（2）—性教育の歴史
- 9 性と教育（3）—性と人間発達の理論
- 10 教育の現代的課題（1）—適応障害について①
- 11 教育の現代的課題（2）—適応障害について②
- 12 教育の現代的課題（3）—モンスター・ペアレントについて
- 13 歴史と教育（1）—歴史教科書問題を考える①
- 14 歴史と教育（2）—歴史教科書問題を考える②
- 15 いのちの教育について
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

遅刻、私語、無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上欠席した場合には、期末試験の受験を認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

経済学 I

担当教員 仲地 健

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

経済学はミクロ経済学とマクロ経済学の二つに大きく分けられるが、本講義ではミクロ経済学を学ぶ。具体的には、経済を構成する個々の消費者や企業はどのような行動をとるのか、市場において財・サービスの価格や数量はどのように決定されるのかを学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	需要曲線と供給曲線
3	市場均衡と均衡の安定性
4	需要曲線・供給曲線のシフト
5	価格弾力性①
6	価格弾力性②
7	余剰分析①
8	余剰分析②
9	消費者行動の理論①
10	消費者行動の理論②
11	生産者行動の理論①
12	生産者行動の理論②
13	パレート最適
14	市場の失敗と独占
15	講義の総括
16	期末試験

【履修上の注意事項】

私語は厳禁。

【評価方法】

試験結果で評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

石川秀樹『速習！ミクロ経済学一試験攻略入門塾』中央経済社2011年。

経済学Ⅱ

担当教員 宮城 和宏

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ミクロ経済学、マクロ経済学の基本概念が、身近な沖縄経済の分析を通して理解できるようになることを目的とする。沖縄の身近な経済事象は経済学のキーワードを用いてどのように分析できるのか、経済学とはどのような学問なのかについて関心が持てるような講義を心がける。

【授業の展開計画】

- 第1回 インTRODクション：講義内容の紹介、成績評価方法、その他
- 第2回 基地の経済学Ⅰ（機会費用）
- 第3回 " II（外部効果）
- 第4回 サンエーの経済学Ⅰ（規模の経済性）
- 第5回 " II（範囲の経済性）
- 第6回 業界分析の経済学Ⅰ（市場構造）
- 第7回 " II（企業戦略）
- 第8回 " III（市場成果）
- 第9回 為替レートの経済学Ⅰ（期待・購買力平価）
- 第10回 " II（円高・円安と沖縄経済）
- 第11回 金融・財政政策の経済学Ⅰ（政府と日銀）
- 第12回 金融・財政政策の経済学Ⅱ（アベノミクスと沖縄経済）
- 第13回 GDP、県民所得の経済学（GDPの概念）
- 第14回 GDP、県民所得と幸福度Ⅱ（県民所得と幸福度）
- 第15回 総括
- 第16回 テスト

【履修上の注意事項】

経済学の知識は全く前提としない。初めて経済学を学ぶ人大歓迎。

【評価方法】

出席態度、授業への参加度（質問等）、期末試験で総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（レジュメ等を配布する）

【参考文献】

特になし。

社会学 I

担当教員 末吉 重人

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は共通科目であるため、親しみやすさを目指し前期は興味を持ちやすいアップデートな「社会問題」を扱う。

【授業の展開計画】

第1回	シラバスの説明	第9回	社会福祉（ノーマライゼーション等）
第2回	マスコミ論入門	第10回	〃（ビデオ使用、介護保険等）
第3回	〃（ビデオ使用）	第11回	教育問題（学校の教育力）
第4回	家族問題入門（沖縄の離婚）	第12回	〃（地域・社会の教育力、ビデオ使用）
第5回	〃（虐待、ビデオ使用）	第13回	宗教の問題（世界の宗教）
第6回	「男女共同参画」問題	第14回	〃（沖縄の世界観、ビデオ使用）
第7回	「ジェンダー」の問題	第15回	期末テスト
第8回	安全保障の問題		

【履修上の注意事項】

授業の半分は質問用紙を使ったQ & A形式で進行したい。私語は厳禁。退場もある。これは厳格に行う。授業に出席しないとテストが解けないので、そのつもりで受講すること。

【評価方法】

前後期とも期末テスト（80点）と出席点（20点）で評価する。

【テキスト】

『書き込み式社会学入門』（末吉重人、球陽出版、2007年：700円）

【参考文献】

伊江朝章、波平勇夫、鵜飼照喜編『現代教養としての社会学』、福村出版、1989年

社会学Ⅱ

担当教員 末吉 重人

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

後期は理論的な社会学を紹介する。社会学成立の背景となったフランス革命をおさらいし、それから代表的な社会学者・理論を取り上げる。特に最近毎年三万人を超えている自殺者問題をデュルケムの際に扱う。

【授業の展開計画】

第1回	シラバスの説明	第9回	ウェーバーの支配社会学
第2回	社会学の始まりーコント	第10回	機能主義社会学とパーソンズ
第3回	デュルケムの社会学	第11回	パーソンズのAGIL
第4回	デュルケムの自殺論	第12回	パーソンズ以降の社会学
第5回	自殺の「ビデオ教材」視聴	第13回	マートンの中範囲理論
第6回	マルクス主義社会学	第14回	期末テスト
第7回	マルクス主義と社会主義諸国	第15回	ポストモダニズム
第8回	ウェーバーの近代化理論		

【履修上の注意事項】

授業の半分は質問用紙を使ったQ & A形式で進行したい。私語は厳禁。退場もある。これは厳格に行う。授業に出席しないとテストが解けない仕組みなので、そのつもりで履修すること。

【評価方法】

前後期とも期末テスト（80点）と出席点（20点）で評価する。

【テキスト】

『書き込み式社会学入門』（末吉重人、2010年：700円）

【参考文献】

『社会学講義』富永賢一、中公新書、1995年初版、900円

社会福祉入門 I

担当教員 竹藤 登

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 現代社会における社会福祉の意義、理念について理解させる。
2. 社会福祉の歴史・理念の変遷について理解させる。
3. 現代社会福祉の重要課題を理解させる。
4. 福祉新法について理解させる。
5. 人権と権利、権利擁護システムについて理解させる。
6. ソーシャルワークの実践を理解させる。

【授業の展開計画】

講義方式

1. 社会福祉とは 社会福祉の視点
2. 福祉の理念の変遷 歴史的背景 ノーマライゼーション
3. 福祉基礎構造改革 措置から契約へ
4. ソーシャルワーカーとは ソーシャルワーカーの役割
5. 介護保険法の概要
6. 障害とは 障害者の心理
7. 自立とは 自立支援とは エンパワメント
8. 障害者自立支援法の概要
9. 生活保護法の概要
10. 児童福祉法の概要
11. 人権と権利(高齢者虐待) アドボカシー
12. 権利擁護システム(苦情解決・オンブズマンシステム)
13. 成年後見制度の概要
14. 成年後見活動の実際
15. ソーシャルワーク実践事例
16. まとめとテスト

【履修上の注意事項】

授業はその場でよく聞いて理解するように務めること。
わからない専門用語は、その場で質問するか、質問用紙に書くと、翌週解説する。

【評価方法】

期末テスト 出席率 毎回授業後に実施する小レポートで評価

【テキスト】

その都度資料配布

【参考文献】

社会福祉入門Ⅱ

担当教員 竹藤 登

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 社会福祉援助技術の実際について理解させる。
2. 倫理性を身につける。
3. 個別援助技術を学ぶ。
4. 集団援助技術を学ぶ。
5. ケアマネジメント手法を学ぶ。
6. 社会福祉運営管理方法を学ぶ。
7. スーパービジョンを体験する。

【授業の展開計画】

講義形式及び演習形式

1. 自己覚知演習①
2. 自己覚知演習②
3. コミュニケーション技術演習
4. 面接技法演習
5. 利用者理解 利用者の困難性を環境因子から考える
6. 価値と倫理 倫理綱領を考える
7. 社会福祉援助技術の基本原理と種類
8. 個別援助技術（ケースワーク）の実際
9. 集団援助技術（グループワーク）の実際
10. 地域援助技術（コミュニティーワーク）の実際
11. ケアマネジメント手法の実際
12. ケアマネジメント演習 アセスメントからプラン作成
13. 社会福祉運営管理の実際（福祉経営五本の柱）
14. リスクマネジメント リスク管理と苦情解決
15. スーパービジョンの実際
16. まとめとテスト

【履修上の注意事項】

演習方式の授業もありますので、積極的に参加すること。
わからない専門用語などは積極的に質問すること。
毎回授業後に提出する小レポートは、自分の考えをしっかりと書くこと。

【評価方法】

期末テスト、出席率、毎回授業後に実施する小レポートで評価する。

【テキスト】

その都度資料配布

【参考文献】

女性と社会

担当教員 新木 順子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

女性たちの「憲法」と言われる「女子差別撤廃条約」が1979年に国連総会で採択され、日本も国内法を整備し1985年に批准した。それから20年近くたった今日、公然と女性を差別扱いする事はなくなったようだ。しかし日本は国際的にみても、社会全体を見渡しても、依然として男性優位のアンバランスは変わらない。また、「女は内、男は外」という役割分担意識も根強い。本講義は、これら現状を様々な側面から改めて捉え直して、異なる他者を相互に理解し、人として自分らしく生きるために考える契機になればと思う。

【授業の展開計画】

- 1、講義全体の説明
- 2、性別は男と女だけ？
- 3、セックス、ジェンダー、セクシャリティ
- 4、脳の造りが違うから男女の役割も違っていい？
- 5、学校の中の隠れたカリキュラム
- 6、家庭の躰を通して見えてくるもの
- 7、配偶者や恋人間で起こる暴力（DV）とは？
- 8、女性のM字型の働き方、画期的なセクハラ訴訟
- 9、企業の目指す改革
- 10-12、結婚、非婚、離婚
- 13、男女共同参画社会のめざすもの
- 14、沖縄県の参画社会の現状
- 15、男女問わず自由に生きたい！
- 16、テストないレポート

*テーマごとの講義時間や内容には講義の進み具合で変更があることをご了承ください。

【履修上の注意事項】

テストの場合はレジメを持ち込んでいいのですが、常にメモをしっかりとるようにしてください。

【評価方法】

出席点は加味します。ただし当然ですが代筆、第返は認めません。

【テキスト】

特にありません。

【参考文献】

政治学 I

担当教員 芝田 秀幹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。とりわけ、「政治学 I」では現代政治学の基本理論を整理・紹介するとともに、現実には生じている政治的な諸問題についても随時言及し、それらを解決するための「ヒント」を学問的見地から提供したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	開講オリエンテーション - 「居酒屋政治談義」を超えて -
2	政治
3	政治学
4	政治権力
5	政治体制
6	政治過程
7	選挙 (1)
8	選挙 (2)
9	政党 (1)
10	政党 (2)
11	官僚制
12	利益集団・市民運動
13	マスメディア
14	地方自治
15	講義のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

「政治学 II」も履修することが望ましい。

【評価方法】

定期試験の結果と出席状況で判断。

【テキスト】

使用しない。プリントを適宜配布。

【参考文献】

開講時に指定。

政治学Ⅱ

担当教員 芝田 秀幹

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。とりわけ、「政治学Ⅱ」ではデモクラシー、国家、自由、平等、共同体など、政治学のなかでも政治的価値や理念を巡る様々な理論を整理・紹介する。なお、本講義の受講を通じて、学生諸君が政治理論のアウトラインを把握するとともに、現実政治を思想的に把握する視座を体得してもらえらることを念じている。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	開講オリエンテーション
2	国家 (1) - 古代ギリシャ -
3	国家 (2) - 社会契約論 -
4	国家 (3) - 多元的国家論 -
5	共同体 - コミュニタリアニズム -
6	自由 (1) - リバタリアニズム -
7	自由 (2) - 自由概念の史的変遷 -
8	デモクラシー (1) - 民主主義の基本原理 -
9	デモクラシー (2) - 熟議・闘技民主主義 -
10	主権 - ボダンとコンフェッショナルリズム -
11	平等 - 政治学史上の平等論 -
12	理想主義
13	社会主義
14	保守思想
15	講義のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

「政治学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【評価方法】

定期試験の結果と出席状況で判断。

【テキスト】

使用しない。プリントなどを適宜配布。

【参考文献】

開講時に指定。

地理学 I

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学 I では、地球上の自然環境と資源と産業について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地形 ①
2	地形 ②
3	気候 ①
4	気候 ②
5	植生と土壌、水資源について
6	自然災害と環境問題①
7	自然災害と環境問題②
8	世界の農業形態①
9	世界の農業形態②
10	世界の農業形態③
11	林業と水産業
12	エネルギーと資源
13	世界の工業地域①
14	世界の工業地域②
15	世界の工業地域③
16	テスト

【履修上の注意事項】

小レポートを数回提出してもらう。また、この授業は教科書と地図帳および配布プリントをベースとして進めるので、必ず教科書と地図帳は購入すること。なお、地図帳については、高校生用の地図帳がある場合にはそれでもかまわない。出席を重視するので1/3以上欠席した場合には単位は認定しないので、注意すること。また、追試・再試は行わない。

【評価方法】

小レポート、テスト、出席状況で総合的に判断する。

【テキスト】

新詳 資料 地理の研究、B5判 344ページ 定価980円
 新詳高等地図 1,575円 帝国書院

【参考文献】

授業の中でその都度紹介する。

地理学 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地理学には、特定の地域を対象に自然環境から人文環境について総合的に記述する地誌学と、系統科学との関係から地域をみる系統地理学による分類がある。また、自然環境を主に地域的特性を考証する自然地理学と、人文・社会現象を主に地域的特性を考証する人文地理学による分類もある。総じて言えることは、「自然と人間」「空間・場所と人間」との関わりを明らかにすることが地理学の大きな目標である。本講義では、環境論的観点から地理学の本質を検討する予定である。

【授業の展開計画】

- 1 地理学の成立と本質
- 2 地図の歴史
- 3 地図の種類
- 4 地図の利用
- 5 地域と景観①－韓国済州島の景観－
- 6 地域と景観②－ミクロネシアの景観－
- 7 地域と景観③－台湾の景観－
- 8 環境と生態①－熱帯地域の環境－
- 9 環境と生態②－湿潤地域の環境－
- 10 環境と生態③－乾燥地域の環境－
- 11 環境と生態④－寒帯地域の環境－
- 12 開発と環境変化①－疾病（マラリア）と地理的環境－
- 13 開発と環境変化②－土地利用と居住環境の変容－
- 14 開発と環境変化③－都市の拡大とヒートアイランド現象－
- 15 開発と環境変化④－都市と経済－
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。出席と課題の提出を重視するので、注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席状況により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地理学Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学Ⅱでは、地図とGIS、地理学の歴史、生活文化とグローバル化について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生活空間の拡大と地図の発達
2	さまざまな地図
3	地形図の活用の仕方
4	地形図の活用の仕方
5	地理情報システムとリモートセンシング
6	村落と都市①
7	村落と都市②
8	消費と余暇行動
9	人口と食糧①
10	人口と食糧②
11	交通と通信
12	貿易と経済的な結びつき
13	国家と民族・文化
14	地域開発
15	21世紀の地理学ーこれからの地理学ー
16	試験

【履修上の注意事項】

小レポートを数回提出してもらう。また、この授業は教科書と地図帳および配布プリントをベースとして進めるので、必ず教科書と地図帳は購入すること。なお、地図帳については、高校生用の地図帳がある場合にはそれでもかまわない。出席を重視するので1/3以上欠席した場合には単位は認定しないので、注意すること。また、追試・再試は行わない。

【評価方法】

小レポート、テスト、出席状況で総合的に判断する。

【テキスト】

新詳 資料 地理の研究、B5判 344ページ 定価980円
 新詳高等地図 1,575円 帝国書院

【参考文献】

授業の中でその都度紹介する。

地理学Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地理学には、特定の地域を対象に自然環境から人文環境について総合的に記述する地誌学と、系統科学との関係から地域をみる系統地理学による分類がある。また、自然環境を主に地域的特性を考証する自然地理学と、人文・社会現象を主に地域的特性を考証する人文地理学による分類もある。総じて言えることは、「自然と人間」「人間と空間・場所」との関わりを明らかにすることが地理学の大きな目標である。本講義では、とくに空間論的観点から、世界・日本の地理を検討したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	地理学の本質と原理
3	立地と空間①－農業－
4	立地と空間②－農業－
5	立地と空間③－工業－
6	立地と空間④－工業－
7	立地と空間⑤－商業－
8	立地と空間⑥－商業－
9	立地と空間⑦－都市の立地－
10	立地と空間⑧－都市の立地－
11	立地と空間⑨－島嶼都市の立地－
12	立地と空間⑩－島嶼都市の立地－
13	空間と社会組織①
14	空間と社会組織②
15	空間と社会組織③
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。出席と課題の提出を重視するので、注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席状況により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

日本国憲法

担当教員 西山 千絵

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

日本国憲法は、日本国の基本法です。憲法の各条項に定められている基本的権利とその基底にある原理の概要をとらえるとともに、国会、内閣、裁判所といった国家機関によって、どのように権利保障の実現が図られているのかについて学習します。[1]日本国憲法によって割り当てられた国家機関の権限、[2]日本国憲法によって保障された基本的権利の意義、[3]日本国憲法の基礎にあってこれを支える考え方、これらを理解できるようになることがこの授業の到達目標です。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	日本国憲法の制定と「法の支配」
2	基本的人権の保障（総論）
3	包括的基本権及び平等原則
4	精神的自由（1）信教の自由と政教分離原則
5	精神的自由（2）表現の自由とその意義、その規制
6	精神的自由（3）表現の自由と個人のプライバシー
7	人身の自由（適正な刑事手続）
8	経済的自由（職業選択の自由及び財産権）
9	社会権（生存権、教育権及び労働基本権）
10	統治の基本原則（含：国民主権、平和主義）
11	国会の権限
12	内閣の権限
13	裁判所と司法権、合憲性審査権
14	財政
15	地方自治
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

指定した教科書に沿って、講義形式で授業を進めていきますが、授業中の解説がわからないときなどは質問をしてください。できる限り丁寧な授業を心がけるつもりです。

【評価方法】

出席状況（10%）・期末試験（90%）の割合をめどに評価します。成績評価は、原則として上記の総合点により行います。

【テキスト】

- ・裁判所職員総合研修所監修『憲法概説〔再訂版〕』（司法協会、2008年）
- ・講義には日本国憲法の全文を参照できるものを各自持参してください。

【参考文献】

- ・辻村みよ子＝佐々木弘通＝山元一編『憲法基本判例』（尚学社、2012年）
- ・法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣、2012年）

日本国憲法

担当教員 西山 千絵

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

日本国憲法は日本国の基本法です。この憲法で、個人の基本的権利の保障、国民主権と民主制、権力分立、法の支配といった諸原理がいかにより具体化され、実現されているのかを学習します。[1]日本国憲法による国家機関の権限分担、[2]日本国憲法によって保障された基本的権利の意義、[3]日本国憲法の基礎にあつてこれを支える考え方、これらを理解することがこの授業の到達目標となります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	憲法と立憲主義
2	統治の基本原則とその変容（大日本帝国憲法から日本国憲法へ）
3	日本国憲法の特質
4	基本的人権(1)・総論
5	基本的人権(2)精神的自由権：信教の自由と政教分離
6	基本的人権(2)精神的自由権：表現の自由をめぐる諸問題
7	基本的人権(3)経済的自由権
8	基本的人権(4)人身の自由（適正手続の保障）
9	基本的人権(5)法の下での平等
10	基本的人権(6)社会権
11	統治機構・総論
12	国会
13	国会と内閣
14	内閣の権限
15	裁判所
16	憲法の保障（違憲審査制）

【履修上の注意事項】

指定した教科書に沿って、講義形式で授業を進めていきますが、授業中の解説がわからないときなどは質問をしてください。できる限り丁寧な授業を心がけるつもりです。

【評価方法】

成績評価は原則として、出席状況（10%）・期末試験の結果（90%）に基づいて総合的に決定します。

【テキスト】

伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年）

【参考文献】

- ・辻村みよ子『憲法〔第4版〕』（日本評論社、2012年）
- ・辻村みよ子＝佐々木弘通＝山元一編『憲法基本判例』（尚学社、2013年）
- ・金子宏＝新堂幸司＝平井宜雄編『法律学小辞典（第4版補訂版）』（有斐閣、2008年）

日本国憲法

担当教員 一仲宗根 京子

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

そもそも、なぜ憲法は存在するのでしょうか？本講義では、近代立憲主義が確立されてきた歴史や日本国憲法の基本原理を学んだ上で、個々の人権規定の問題点（例えば、他者の人権や社会の利益との調和はどう図られるべきか？など）について、写真や資料を多様した初学者にもなじみやすいテキストを用いて、具体的な事例を基に、共に考えることをねらいとします。併せて、いくつかの外国憲法との若干の比較を通じて、私たちの国の根本法である憲法の本質や未来について考えるきっかけにしたいと思います。

【授業の展開計画】

- 第1回 インTRODクション 及び 「憲法」とは何か？
形式的意味・実質的意味、憲法はだれを縛るルールか？ 立憲主義
- 第2回 近代立憲主義の成立経緯 と 憲法の思想的潮流（法の支配と法治主義）
日本国憲法の本質（自由の基礎法、制限規範性、最高法規性）
- 第3回 日本国憲法の基本原理（①国民主権 ②基本的人権の尊重 ③平和主義）と相互の関係性、
個人の尊厳の重み
- 第4回 人権総論：主体に外国人も含まれるか？ 個別規定のない新しい人権は保障されるのか？
（包括的基本権）人権は無制約か？制約できる場合、その根拠は？
- 第5回 法の下での平等：平等の意味～法内容の平等、更には結果の平等まで保障されるのか？
- 第6回 精神的自由権 1、内心の自由 ①思想良心の自由 ②信教の自由 *信教の自由と政教分離原則
③学問の自由 *学問の自由と大学の自治
- 第7回 精神的自由権 2、表現の自由 *その価値 *表現の自由と知る権利 *報道の自由と名誉毀損
*検閲、教科書検定
- 第8回 経済的自由権 1、職業選択の自由 2、居住移転の自由 3、財産権の保障
*「公共のために用いる」の意味とは？補償の要否・程度
- 第9回 社会権（①生存権 ②教育を受ける権利 ③勤労の権利 ④労働基本権）
*自由権との違いは何か？福祉国家理念がもたらした国の積極的介入とは？
- 第10回 その他の人権（人身の自由、受益権、参政権）
- 第11回 統治総論 *三権（立法権、行政権、司法権）分立とはどういう原理か？
- 第12回 裁判所（司法権） *司法権の独立の意義 *裁判所は法律を無効にできるか？
（違憲審査制）できるとした場合、どのような基準で判断すべきか？
- 第13回 国会（立法権） *国民が自ら直接、立法してはいけないのか？
- 第14回 内閣（行政権） *議院内閣制とは何か？国民が直接、国家のリーダーを選んではいけないのか？
- 第15回 地方自治 *中央の統治システムとはどのように異なっているのか？ まとめ
- 第16回 学期末試験

【履修上の注意事項】

毎回、出席をとります。遅刻や途中入退室、私語は謹んで下さい。初回講義において、講義の進め方、期末試験及び評価方法について、詳しく説明します。

【評価方法】

期末テストの成績、及び、出席状況や講義への参加状況を総合評価して行います。なお、出席点が3分の2に満たない場合には、期末試験の受験は認めません。

【テキスト】

「目で見る憲法（第4版）」 初宿正典 他 編著 有斐閣 2011年（定価 1680円） テキストにも関連条文が載っていますが、教科書を持たない場合には、少なくとも六法を持参して下さい。

【参考文献】

「憲法 第5版」 芦部信喜 著 高橋和之 補訂 岩波書店 2011年
「四訂 憲法入門」 樋口陽一 著 勁草書房 2008年

文化人類学 I

担当教員 火 4 担当：石垣直 水 3 担当：石垣直／山本ブードロウ成

対象学年 1 年

開講時期 前期

単位区分 選択

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「文化人類学」とは、「文化」というキーワードを基礎としながら、世界各地の諸社会および総体としての人類社会について、その多様性と共通性を明らかにしていこうとする学問分野である。本講義では、「人間と文化」という視点から人類社会に関わるさまざまなトピックを取り上げて、人類とは何か、人間社会とは何かについて考えていく。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「文化」とは何か——人類学と「異文化理解」
3	文化人類学の方法論——「社会・文化」を読み解くために
4	映像鑑賞
5	家族と親族（1）——親族研究の基礎と人類学
6	家族と親族（2）——出自、キンドレッド、婚姻
7	贈り物のヒミツ——贈与・交換の原理と「社会」
8	認識・コミュニケーション・儀礼——タブー論からイデオロギー論まで
9	死・世界観・宗教——究極問題へのアプローチ
10	映像鑑賞
11	政治と権力——人類社会における諸政治形態と権力
12	身体とジェンダー——オトコであること、オンナになること
13	自然・環境・資源化——人間と自然環境との関係
14	アイデンティティ・民族・ナショナリズム
15	まとめ——「人類社会理解」への果敢な挑戦
16	期末試験

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（40％）、筆記試験（60％）

毎回の授業時に、出席および授業参加姿勢を確認するため、レスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

石川栄吉ほか（編）1995 [1987] 『文化人類学事典』弘文堂。

文化人類学 I

担当教員 山本 ブードロウ 成

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

文化人類学の視点をとおして世界中のあらゆる民族社会・文化を知り、さらに自らの文化について考える—
本講義では文化人類学の視点から主にハワイを具体的なフィールドとして取り上げ、その文化・歴史・自然などを学びます。沖縄から遠く離れたハワイですが、実は沖縄ととても深い関係があります。ハワイを学ぶことで皆さんが暮らす沖縄について新たな視点から考える機会になればと思います。また、本講義では写真や映像資料等を活用して実際のハワイの様子を伝えていきたいと思っています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化人類学への誘いI (講義内容説明、アンケートほか)
2	文化人類学への誘いII
3	文化人類学とハワイ研究
4	ハワイ研究への招待I
5	ハワイ研究への招待II
6	ハワイの自然と観光I
7	ハワイの自然と観光II
8	ハワイの伝統文化I
9	ハワイの伝統文化II
10	ハワイの伝統文化III
11	ハワイの多文化社会I
12	ハワイの多文化社会II
13	ハワイの多文化社会III
14	ハワイのオキナワンI
15	ハワイのオキナワンII
16	テスト、レポート提出、講義統括

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テストおよびレポートと出席状況の総合評価とする。

【テキスト】

講義毎にレジュメ、資料を適宜配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

文化人類学 I

担当教員 栗国 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

文化とはなにか。成立して160年ほどの若い学問である文化人類学の視点をとおして「人間の在り方」を考えてみる。世界の様々な民族の社会・文化を知ることによって自らの文化について考える。

【授業の展開計画】

- 1 週目 文化とは何かー文化人類学の概念・課題と方法ー
- 2 週目 文化人類学とはどのような学問か 人種と民族、方法論
- 3 週目 文化人類学学説史① 民族概念・進化主義・伝播主義・機能構造主義
- 4 週目 生活の技術・経済の技術① パプアニューギニアトロブリアント諸島のクラ交換
- 5 週目 生活の技術・経済の技術② 海に生きる人々 スルー海の漂海民 国境・国民化
- 6 週目 照葉樹林文化 東アジアの自然と人々の暮らし
- 7 週目 世界の食文化 現代の食文化と日本・アジア 現代問題・グローバル
- 8 週目 環境と人々の暮らし
- 9 週目 西南シルクロード 中国西南部の民族
- 10 週目 中国の少数民族文化① 雲南省ナシ族・麗江 社会の構造 婚姻システム
- 11 週目 中国の少数民族文化② 雲南省チベット族 観光化・チベット仏教
- 12 週目 中国の少数民族文化③ ウイグル自治区中国・カシュガル 文化の記録・金属の技術
- 13 週目 東アジアの造形・色彩文化 紙（中国、日本、沖縄の紙の文化）
- 14 週目 身体加工・装飾文化 身体概念・アジアの入墨文化・人生儀礼
- 15 週目 空間認識の文化 東アジアの空間認識・風水・首里城・民俗方位
- 16 週目 テスト レポート

【履修上の注意事項】

* 図書館の図書分類380のコーナーには人類学・民族学関連資料にふれ学問のイメージを膨らませて欲しい

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

その他の 講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用し、重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

【参考文献】

『文化人類学』祖父江孝男編(中公新書)『文化人類学』波平恵美子編(医学書院)『よくわかる文化人類学』綾部・桑山編(ミネルヴァ書房)『文化人類学キーワード』山下晋司編(有斐閣)『文化人類学最新術語100』綾部恒雄

文化人類学Ⅱ

担当教員 石垣 直

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、文化人類学の諸理論について基礎的な理解を得ることにある。本講義に先立つ「文化人類学Ⅰ」では、生活に関連した諸トピックを取り上げることによって人類社会の多様性と普遍性を論じた。それを踏まえて本講義では、これまでに提出されてきた様々な人類学理論のレビューを通じて、「異文化」および「自文化」を分析する視座の獲得を目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「文化人類学」とは何か——人類学と「異文化」理解
3	人類進化の歴史——地球・生物・人類の歴史
4	社会進化論・伝播論・新進化論——人類史の一般化
5	文化とパーソナリティ論——文化の型、民族性
6	映像鑑賞——人類学者の仕事
7	機能主義（1）——「社会の仕組み」を考える
8	機能主義（2）——人間社会理解の基礎としての親族
9	構造主義（1）——発想の由来とエッセンス
10	構造主義（2）——構造分析とその影響力
11	映像鑑賞——構造主義と音楽
12	認識・象徴人類学と解釈人類学——「文化」の捉え方
13	構造と実践——構造、歴史、主体性
14	日本の人類学——歴史と現在
15	まとめ——人類学理論と人類社会の理解
16	期末試験

【履修上の注意事項】

「文化人類学Ⅰ」の単位を取得したうえで本講義を履修することが望ましい。
 毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（30%）、筆記試験（70%）
 毎回の授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期中間あるいは学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

綾部恒雄（編）2006『文化人類学20の理論』弘文堂
 石川栄吉ほか（編）1995〔1987〕『文化人類学事典』弘文堂

文化人類学Ⅱ

担当教員 栗国 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

文化とはなにか。成立して160年ほどの若い学問である文化人類学の視点をとおして「人間の在り方」を考えてみる。世界の様々な民族の社会・文化を知ることによって自らの文化について考える。

【授業の展開計画】

*Ⅰ・Ⅱは単独登録可能のため1～4週目が同内容

- 1 週目 文化とは何かー文化人類学の概念・課題と方法ー
- 2 週目 文化人類学とはどのような学問か 人種と民族、方法論
- 3 週目 文化人類学学説史 民族概念・進化主義・伝播主義・機能構造主義
- 4 週目 宗教人類学① 超自然・呪術と宗教・アニミズム 「宗教概念」の確認
- 5 週目 宗教人類学② 社会変動と宗教 宗教・政治・民族復興 シャーマニズム
- 6 週目 宗教人類学③ 宗教と現代/カルト
- 7 週目 宗教人類学④ 「靈魂観」の文化象徴ー空飛ぶものの文化ー
- 8 週目 文化表象・語り 象徴と王権 ルーズ・ベネディクトの仕事
- 9 週目 文化表象・展示 文化表象 民族博物館と展示と文化表象
- 10 週目 文化表象 文化ポリティクスとマイノリティー
- 11 週目 構造人類学 レヴィ・ストロースの仕事 「サンタクロースの秘密」
- 12 週目 観光人類学① 文化の語り
- 13 週目 観光人類学② 伝統文化と観光
- 14 週目 開発と文化① 異文化接触 文化の変容
- 15 週目 開発と文化② グローバル化と文化変容
- 16 週目 テスト レポート

【履修上の注意事項】

図書館の図書分類380コーナーの文化人類学・民族学の多くの本に触れ学問 イメージを膨らませて欲しい。

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

指定テキスト特になし

講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用し、重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

【参考文献】

『文化人類学』祖父江孝男編(中公新書)『文化人類学』波平恵美子編(医学書院)『よくわかる文化人類学』綾部・桑山編(ミネルヴァ書房)『文化人類学キーワード』山下晋司編(有斐閣)『文化人類学最新術語100』綾部恒雄

法学

担当教員 西山 千絵

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、日本における刑事司法制度の概要や刑法の基礎的事項を中心とした解説を行い、法学の基本的な考え方を身につけてもらうという初歩的・入門的授業になります。判例などの事例に依りつつ、刑法に固有の基本的な原則を学習することで、「法」がもつさまざまな特徴をより具体的にとらえることを目標とします。後期の法学は民法を主体とした講義となりますので、どちらか興味のもてる方を選んで、授業に参加してください。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・刑法は何のためにあるのか
2	犯罪とその原因、刑罰とその種類
3	刑法とその解釈
4	犯罪について（刑法各論）
5	犯罪論の基礎
6	構成要件
7	違法性
8	責任
9	故意と過失
10	未遂犯と共犯
11	どのようにして刑を決めるか
12	刑事手続の流れ（1）捜査と公判
13	刑事手続の流れ（2）裁判と上訴・再審
14	成人以外の刑事手続
15	犯罪者処遇法・犯罪被害者保護制度
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

指定した教科書に沿って、講義形式で授業を進めていきますが、授業中の解説がわからないときなどは質問をしてください。できる限り丁寧な授業を心がけるつもりです。

【評価方法】

成績評価は原則として、出席状況（10%）および期末試験（90%）に基づき決定します。

【テキスト】

井田良『基礎から学ぶ刑事法 [第4版]』（有斐閣、2010年）

【参考文献】

- ・島伸一編『たのしい刑法Ⅰ・Ⅱ』（弘文堂、2011・12年）
- ・西田典之＝山口厚＝佐伯仁志編『刑法判例百選Ⅰ総論[第6版]』（有斐閣、2008年）
- ・法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣、2012年）

法学

担当教員 長嶺 弘善

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

法は社会における人々の行為規範として機能しており、私たちは法と向き合って暮らさざるをえない。日常生活における物品購入・借家・借金・保証などの契約関係、交通事故などの損害賠償、婚姻・離婚と親子の問題における法的保護、そして人の生死にかかわる法律問題など、さまざまな法現象が存在する。講義はできるだけ具体的事例に即しておこない、法とは何か、法はこの社会においてどのように機能しているのかを理解することを目標とする。そして、身の回りに生起する具体的な問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。

【授業の展開計画】

毎回の授業はそれぞれ異なる分野についておこなうが、法的思考において関連するので、休まずに出席することが、理解の助けとなる。

週	授 業 の 内 容
1	登録確認および導入：法現象
2	六法の使い方：大学の単位と法
3	社会規範としての法：道徳の法化
4	法の分類：公法と私法、私法の一般法
5	出生と法：権利能力、法律行為能力
6	裁判制度：人の行為の法的評価、紛争解決
7	親族の法：親族、親子、親権
8	夫婦の法：婚姻、離婚
9	相続の法：相続、遺言
10	犯罪と刑罰：罪刑法定主義
11	契約の法：私的自治、契約自由
12	不法行為：損害賠償論
13	法の制定：立法権と脳死立法
14	基本的人権：幸福追求と平等
15	まとめ：最高法規としての憲法
16	期末試験

【履修上の注意事項】

テキストを一読し、六法を持参して出席し、講義に集中すること。質問大歓迎。
講義の聞きっぱなしでなく、テキスト再読・ノート整理など、自学すること。

【評価方法】

評価基準および出欠席の扱いについては、『学則』・『学部履修規程』による。
期末試験（穴埋め式および正誤式）で評価する。
試験得点調整が必要な場合、出席を考慮する(1割程度)。

【テキスト】

講義にはテキストおよび六法（法令集）が必要である。開講時に紹介する。

【参考文献】

竜崎喜助『生の法律学【改訂版】』（尚学社）、君塚正臣『高校から大学への法学』（法律文化社）

法学

担当教員 西山 千絵

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義では、労働、住宅の賃借・売買、金銭の貸借、各種の事故と責任、あるいは婚姻などといった、各人の日常生活に最も関わりを深くもつ民法について学び、その基本的かつ重要な仕組みを理解することを通じて、法学の基礎を身につけることを目的としています。法学を学ぶというのは、人間の欲望や日常を見つめることでもあります。社会の中で生きる人々とともにある法学の重要性と、そしてその面白さを実感してもらいたいと考えています。前期の法学は刑事法を題材とした講義となりますので、どちらか興味のもてる方を選んで、授業に参加してください。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	民事法の意義・民法の基本構造
2	権利と義務
3	法律行為
4	代理
5	時効
6	契約
7	所有権
8	不法行為
9	事務管理・不当利得
10	債務の弁済
11	家族
12	親子・扶養
13	相続
14	団体
15	権利の実現
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

指定した教科書に沿って、講義形式で授業を進めていきますが、授業中の解説がわからないときなどは質問をしてください。できる限り丁寧な授業を心がけるつもりです。

【評価方法】

成績評価は原則として、出席状況（10%）・期末試験の結果（90%）に基づいて総合的に決定します。

【テキスト】

野村豊弘『民事法入門[第5版補訂版]』（有斐閣、2012年）

【参考文献】

- ・道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂、2010年）
- ・金子宏＝新堂幸司＝平井宜雄編『法律学小辞典(第4版補訂版)』（有斐閣、2008年）
- ・近江幸治『民法講義 0 ゼロからの民法入門』（2012年、弘文堂）

ボランティア論

担当教員 島村 枝美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

住民主体で進める住民自治や地域福祉の到来、阪神大震災や東日本大震災以降高まるボランティア活動への関心と多様な参加形態や支え合う事の重要性が改めて問われてきた。

そのような時代背景を視野に、ボランティアの概念や意義、歴史的背景等を学び、身近な社会問題とボランティア活動の関わりに関心を持ち、考え、気づき、参加へのきっかけとなることを目指したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義）
2	ボランティアとは何か（講義・GW）
3	ボランティアと現代社会（講義）
4	ボランティア活動の社会的役割（講義・GW）
5	ボランティア活動の歴史と概念（講義）
6	ボランティア活動を支える制度・組織（講義）
7	ボランティア活動と自己実現（GW）
8	地域福祉と社会福祉協議会（講義・VTR）
9	ボランティア活動の現状と課題①（GW）
10	ボランティア活動の現状と課題②（GW）
11	ボランティア活動の現状と課題③（GW）
12	地域におけるボランティアの実践（招聘）
13	ボランティア活動と報酬（GW）
14	lifeワークとボランティア活動（GW）
15	身近な課題の解決デザイン（self ワーク）
16	テスト：自身のボランティア観を実践へ

【履修上の注意事項】

ボランティア活動を生活やライフサイクルの視点から捉え、お互い様の関係づくりと活動の身近性を発見出来るよう、社会の動向や社会（福祉）問題に関心を持ち主体的に授業に参加して欲しい。

【評価方法】

成績評価は出席状況、毎時のミニレポート、学期末テスト等の総合評価によって行う。

【テキスト】

指定なし。適宜レジュメ・資料等を配布する。

【参考文献】

授業で紹介する。